

令和五年度 入学者選抜学力試験 国語（前期／教育） 解答例

解答例

問一 (ア) 促進 (イ) 四肢 (ウ) 操 (エ) 輪郭 (オ) 瓦解

問二 道案内の矢印の設置者が発信者となり、その矢印によって、案内すべき場所がどの方向にあるかを、受信者である道行く人に向けて一方的に伝えるものだから。(72字)

問三 a 「数学、宿題むずかしかったね」

b 「この時期に微積分を出すのは反則だよ」

a 「微積分は結構いろんなところで使うから必要な知識だよ」

問四 結婚式のスピーチは、事前に用意してきた内容や文面をその場にいる人に伝えるものであり、伝達モードの度合いが高いように思われるが、話者が、ゲストからの合いの手に対応したり、新郎新婦の表情をみて微妙に言葉遣いを変えたりするといった生成モードの要素もある。(124字)

問五 トレーナーと熊谷が、リハビリの中で相互の身体に入り込み、能動的、受動的ということを超えて、変化する相手の体の状態を聞き取るうとするコミュニケーションの持続があるということ。(86字)

問六 介助等の場面での人と人との接触、すなわち手でふれる際に働くと考えられる、具体的な状況下の生成的なコミュニケーションによって生み出され続ける、必ずしも一般性を持たないような行動指針のこと。(93字)

問一 二重傍線部(a) (c)について、それぞれ文法的に説明しなさい。

(a) サ行四段活用動詞「出す」命令形の活用語尾(一部) (b) 尊敬の助動詞「る」連用形 (c) 同格の格助詞「の」

問二 波線部(ア・イ)の主語を文章中の語を用いて答えなさい。

(ア) 豊臣太閤 (イ) 絵師共

問三 傍線部A・Bを現代語訳しなさい。

A 私が割粥を好むために、気を利かせて石うすを山に持って登ったのであろう。

B 通茂ごときの身で、どうしてそのような事を思いましようか。思いがけないことでございます。

問四 傍線部Cについて、「太閤をはじめ並み居る人々」が「限りなく愛で感じ」たのはなぜか、説明しなさい。

朝日が差し出ても鳴かずにいた鶯が、通茂の詠んだ和歌の「ひかげ待ち得て鶯ぞなく」ということばに感応したかのように、木の枝から飛び上がり一声美しく鳴いて飛び去って行ったから。

問五 傍線部D「さる奇異の事」とはどのような「事」か、五〇字以内で説明しなさい。

古い屏風に描かれた絵の中の女が、実際に肉体を持っているかのように夜な夜な人前に姿を現した事。

【別解】屏風に描かれた女の頭に紙を貼ったところ、女がそれと同じ紙を頭に付けたまま中庭に現れた事。

令和五年度国語前期【解答例】

問一 (a) いよいよ (b) あたりて

問二 いでざれば(いでずんば)、ひまさにつきんとす。

問三 (イ)思うに私のたどり着いた地点は、山遊びを好む人と比べれば、まだ十分の一にもならないであろう。

(ウ)私の余力は更に奥に進むのに十分で、また明かりも更に照らすのに十分であった。

問四 火

問五 或咎其く之樂也

問六 力があるのに途中で止めると悔いが残るが、力を尽くし志を貫けば、目的が達成できなかったとしても、悔やんだり人に非難されたりすることはない、ということ。(七十四字)